

平成 25 年度 公益財団法人福島県学術教育振興財団助成事業

# 「知的障がい特別支援学校における 『学びのMIERUKA』 プロジェクト」

～「視覚情報」を活用した学びの創造と、

ネットコモンズを活用した校内データベースの構築～

## 実施報告書（ダイジェスト版）



平成 26 年 3 月

福島県立石川養護学校

## 目 次

1. はじめに
  
2. 助成金活用事例報告
  - (1) 石川養護学校夏季セミナーにおける「タブレット端末を活用したワークショップ」
  
  - (2) 校内伝達講習会における「タブレット端末活用ワークショップ」
  
  - (3) タブレット端末と大型液晶TV接続による視覚支援
  
  - (4) イン트라ネットワーク（CMS：NetCommons）の活用による情報の共有

## 1. はじめに

本校では、「知的障がい特別支援学校における『学びのMIERUKA』プロジェクト～ 視覚情報を活用した学びの創造と、ネットコモンズを活用した校内データベースの構築～」をテーマとして実践を行った。

本事業の柱として、以下の3点が挙げられる。

- (1) タブレット端末を活用した児童生徒の学びの実践
- (2) コンテンツマネジメントシステム（以下 CMS : NetCommons）を活用した情報の共有
- (3) タブレット端末の有効な活用に関する情報を得るための研修視察

(1) のタブレット端末を活用した児童生徒の学びでは、本校教職員が受け持つ授業等でタブレット端末や大型液晶テレビを利用し、知的障がいのある子どもたちの学習環境を構築する試みを行った。言語指示等では理解が難しい場面において、映像やスライドなど視覚情報を有効に活用することで理解を促し、かつ学習の内容を印象に残る手段として有効に活用する試みが多く見られた。

また、(2) の CMS を活用した情報共有の試みでは、本校ホームページや校内イントラネットワークで利用されている NetCommons のキャビネット機能を利用し、情報の蓄積や共有に取り組む試みを行った。

(3) の研修視察は、タブレット端末を活用した全国的な実践研究の成果報告会に参加をした。

これらの実践や研修視察等は、平成25年度公益財団法人福島県学術教育振興財団の助成金を活用し取り組まれたものである。

以下、本校で取り組まれた実践等についての報告を行う。

## 2. 助成金活用事例報告

### (1) 石川養護学校「夏季セミナー

『特別支援教育における情報教育機器の活用』の開催

＊地域支援センター・研修部タイアップ研修会

この研修会は、本校を会場として毎年開催されるものである。今年度は、平成25年7月23日（火）に開催された。

実技講習会の分野において、講座「特別支援教育における情報教育機器の活用」というタイトルで、タブレット端末の活用についての導入実践を行った。

今回、助成金を活用して7台の iPad と7台の iPad mini を購入した。本校は無線 LAN が導入されていない環境であるため、タブレット端末に講座で使うアプリケーションを予めインストールし、参加者に体験をしてもらった。

本講座への参加者は、他校の教職員と本校教職員という構成ではあったが、会場は満席の状態となった。このことから、タブレット端末導入への関心が高いことがうかがえた。

今回の実技講習では、機器の操作だけではなく、タブレット端末やそれらに関連する情報も会場の外であわせて紹介を行った。

学習で活用が期待されるアプリケーション等を分野別に紹介を行い、実際に操作を行いながら質問を受けるワークショップ形式で研修を進めた。





参加者からは、「勤務校でも活用したいが、どのように導入を行えばいいか」「自分でも生徒との学習で活用して見たくなった。端末が欲しくなった。」との感想が寄せられた。



(2) 校内伝達講習会における「タブレット端末活用ワークショップ」の開催  
\*研修部タイアップ研修会

平成25年8月22日(木)に全職員を対象に実施された校内伝達講習会において、タブレット端末の活用に関する導入ワークショップを開催した。

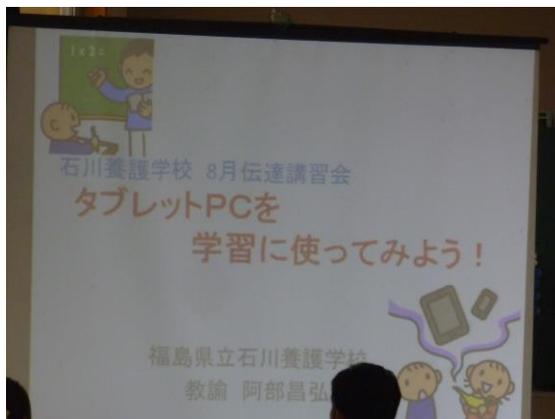
これは、夏期セミナーは主に他校の教職員を対象とした研修であるのに対して、校内の教職員にタブレット端末を実際に利用し体験してもらう機会として研修部とタイアップして開催したものである。

写真はその時の様子である。小学部、中学部、高等部の3グループにわかれて教員同士でタブレットを操作して体験を行った。

利用した経験のある職員がコーチングを行いながら説明をすることで、授業で活用する場面や状況を想像しながら体験を行う参加者が多かった。

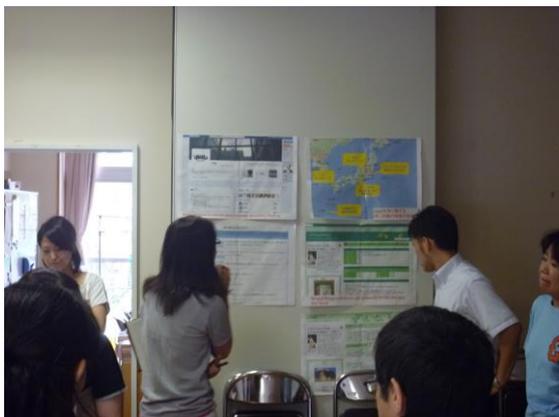
また、タブレットに関する情報等も会場後方に展示を行い、その後問い合わせを行う職員の姿も見られた。

児童生徒の実態が様々な特別支援学校において、担当する生徒にどのような活用ができるのかを考えるきっかけを提供できたのではないと思われる。



### 【写真について】

各学部毎に教職員がアプリケーションを試したり、活用場面を想定してタブレット端末の使い方を学んでいる様子である。また、情報提供として、全国でのタブレット端末を活用した取り組みや、書籍などの展示もあわせて行った。



## (5) タブレット端末と大型TV接続による視覚支援

助成金を活用し、大型液晶テレビ(50型)、iPad 接続アダプタ等を購入した。

この大型液晶 TV と iPad 接続アダプタを使うことで、簡単に iPad の画面を大型液晶テレビにミラーリング投映を行うことが可能となり、教師が操作する iPad の画面を学習に参加する子どもたちへ視覚的な支援として提供し、学習内容の理解につなげることができた。

高等部の部活動等の指導において、シュートフォームやルールの理解を促すために動画をタブレット端末で撮影し、皆で振り返ることで理解が促された事例も報告された。



また、高等部修学旅行の事前学習において見学地や体験学習を行う施設の様子を iPad から大型液晶テレビへ映し出し動画による解説を視聴した。

教師に言葉による説明とあわせて、視覚支援を取り入れた学習の展開を行ったことで、子どもたちの学習に対する興味や関心の高まりとともに、集中して繰り返し視聴が可能なことから納得がいくまで学習に参加する環境を整えることが可能となった。



## (6) イン트라ネットワークの活用による情報の共有

本校では、CMS (NetCommons) を学校ホームページと校内連絡情報共有システムとして利用している。

今回、助成金を利用しドキュメントスキャナを購入し、書類のPDF化を進めることで、紙媒体の情報を電子化し、タブレット端末においても利用ができるのではないかと考え、コンピュータ室の教員用パソコンにドキュメントスキャナの設置を行った。

### 【校内イントラネットワークトップページ】



### 【イントラネットワーク内の「教材お役立ち情報」】



今回導入をしたドキュメントスキャナを利用することで、各教職員が所有する学習用教材などの紙媒体教材や研修資料等の有益な紙媒体情報も、容易にPDFファイルへの変換しデジタル化することで、同時に作成したデータをタブレット端末において使用することが可能となった。



今後の活用の展望として、機器の利用の仕方やタブレット端末で利用するためのデータ処理等の方法について、職員への研修や講習を行うことで利用について啓発の機会を増やしていくとともに、児童生徒の授業においても「デジタル教材制作ツール」としてタブレット端末とあわせて活用していくことで、児童生徒に有益な視覚支援教材の制作が容易になるものと考えられる。

